

ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成15年 **2003.1**
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第75号

「北陸地区国立大学連合」が発足

TOP NEWS

北陸三県の7国立大学は12月24日、「北陸地区国立大学連合」の結成に合意し、協定に調印した。この連合は、各大学の独自性を維持しつつ、大学間の連携・協力を推進し、(1)科目の履修や進学に対する選択肢と機会の拡大、(2)高度で幅広い学術研究や共同研究の展開、(3)環日本海の拠点としての情報発信、(4)教育・研究・社会貢献活動の推進のための基盤と体制の整備、に取り組み、それぞれの教育研究の活性化を図ろうとするものであり、全国的にも大きな注目を集めている。



協定書に署名する林勇二郎学長
＝事務局大会議室



連合の結成で手を取り合う
7国立大学の学長、副学長
＝事務局大会議室



部局長等を前に年頭のあいさつを行う林学長
＝事務局大会議室



えいち 「全学構成員の叡智を結集して」 －学長が年頭のあいさつ－

林学長は1月6日、部局長等を前に行った年頭のあいさつで、法人化に向けた準備、組織・制度を見直す学内改革、角間と宝町の整備、COE申請や知的財産本部の設置など、本学が取り組む課題と方向について抱負を述べ、全学の構成員が叡智を結集して事に当たるよう呼びかけた。

ISSN 1346-0684

巻頭言

里山の萌芽



学 長
林 勇二郎

初詣でのあと、好天に誘われて角間に足を伸ばした。うっすら雪に覆われた里山は、すっかり落葉した小柄^{こなら}やあべまきの雑木が林立し、あちこちに鶯^{ひよどり}上戸の赤い実が蕭条^{しょうじょう}として彩っていた。雪面に残る小さな足跡は誰のものだろうか。時折聞こえる小鳥のさえずりが静寂さを一段と引き立たせていた。角間の里山は深い冬の眠りにある。

そんな中で、スマレが雪の隙間から葉をのぞかせ、アザミの口ゼットが大地をしっかりと捉え、冬枯れの木立は小さな芽を潜ませていた。里山は冬の日を浴び、やがて訪れる春に向けて確かな生命を宿している。

尾根筋を進むと、視界が突然開けて工事中の角間キャンパスの南地区が現れた。遠く青空には冠雪の輝く白山山系が美しい。知者は水を楽しみ仁者は山を楽しむ。里山から幾重にも連なる山並は恰も知^{ひた}の襲^{ひた}のようであり、その中枢に角間キャンパスがある。草木が芽吹く春には、大学は有為な人材を輩出し、新たな知を創出することだろう。

建設中の建物群は、本学がこれから進める教育と研究の新しい器である。南地区と中地区を結ぶ橋は自然科学の学際を強め、人文・社会系の北地区に繋がるアカンサスインターフェイスはそれを総合へと発展させてくれよう。

大学は多様な専門とそれに関わる多くの集団からなる組織である。こうした大学の個性は、学問の自由が根底にあつて発現されようが、そこには組織としての大学の自主・自律が求められる。国立大学の法人化まで残すところ1年余りである。中期目標・計画に、本学が標榜する教育を重視した研究大学の構想を書き込むとき、以上の考え方を基本としなければならない。そして、それが具体的に実行されたとき、角間と宝町キャンパスの器ははじめて形而上のものとなるはずである。年頭にあたり、里山と大学の萌芽を心待ちにしたい。

目次

「北陸地区国立大学連合」が発足	1	就職説明会	8
「全学構成員 ^{えいち} の叡智 ^{えいち} を結集して」		金沢大学留学生懇談会	8
－学長が年頭のあいさつ－	1	合唱団 全国大会で銀賞！	9
巻頭言 里山の萌芽	2	ライフル射撃部 優勝	9
KUTLOが「承認TLO」に		第2回交通安全講習会	9
－研究成果の技術移転に大きな期待－	3	本学へのお客さま	10
環日本海地域における国際交流・国際協力の発展を目指して		金沢大学国際交流後援会との連絡会議	10
－日本海域研究所が国際シンポジウム開く－	4	総務大臣賞を受賞	10
“戦略なくして勝利はあり得ない”		ミニ講演会「キノコの薬効」	11
－産学連携講演会－	4	内閣府地方分権改革推進会議事務局が	
平成15年度提案公募型事業等施策説明会	4	金沢大学地域貢献事業を視察	11
特別講演会「私立大学の経営危機に学ぶ国立大学改革」	5	発行	11
大島事務局長が教養的科目で講義		角間の里山自然学校	12
「公務員の種類と概要について」	5	キャンパス点描	12
高速ネットワークを利用した遠隔医療システム	6	編集後記	12

ビッグニュース

KUTLOが「承認TLO」に —研究成果の技術移転に大きな期待—

昨年の10月31日に設立し営業を開始した有限会社金沢大学TLO（KUTLO）が12月26日、経済産業省から「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」第4条に基づき、国立大学で28番目となる「承認TLO」として認可され、同日、文部科学省から板垣英治社長に承認書が交付された。27日午後、関係者が記者会見をひらいて公表した。

今後は、北陸地域で唯一の「承認TLO」として、本学をは



坂田東一官房審議官（研究振興局担当）から承認書の交付を受ける板垣社長
=12月26日、文部科学省



記者会見する関係者
=12月27日、共同研究センターセミナー室

じめ石川工業高等専門学校等の研究成果の技術移転推進に、大きな期待が寄せられている。

なお、1月からは技術移転部門及び特許出願部門等のスタッフを採用し、本格的な業務を開始する。

(URL:<http://kutlo.incu.kanazawa-u.ac.jp/>)

〈承認TLOの概要〉



説明する平野武嗣産学連携チーフ・コーディネーター
=12月27日、共同研究センターセミナー室

No.	項目	承認 T L O
1	承認TLO	文部科学省+経済産業省による承認
2	取り扱い特許	国立大学教官個人有、公私立大学有・教官個人有
3	特許権の移転	保有者→承認TLOへの譲渡（私契約）
4	特許を出願する権利	発明者→承認TLOへ譲渡（私契約）
5	特許料、手数料、登録料	半額（アカデミック・ディスカウント）
6	国立大学施設の使用	無料使用（文科省への協議必要）
7	国の助成金	収集、評価、編集、発信、指導などの経費実績の2/3、年30百万円を上限に交付
8	中小企業優遇	中小企業投資育成株式会社法の特例で資金調達円滑化
9	国の債務保証	承認された事業の実施のために必要な資金の借入れの債務保証

12月のニュース

環日本海地域における国際交流・国際協力の発展を目指して －日本海域研究所が国際シンポジウム開く－

日本海域研究所が主催する国際シンポジウム「異文化理解における政治の役割」－環日本海地域における国際交流・国際協力の発展を目指して－が、12月7日、学内外の研究者・学生など約60名を集めて開催された。

ロシア、カナダ及び日本の講師による講演の後、相対的少数民族の抱える問題、文化的同化・異化等について活発な意見交換が行われた。



講演を聴く出席者
＝大学教育開放センター大会議室

パネルディスカッション



“戦略なくして勝利はあり得ない” －産学連携講演会－



講演する赤坂教授
＝工学部秀峯会館

12月10日、共同研究センター等が主催して、赤坂洋一北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術調査センター長を講師に「産学連携と産業構造の改革」と題した産学連携講演会がひらかれ、教職員、学生、企業等関係者約50名が出席した。

平成15年度提案公募型事業等施策説明会

12月16日、共同研究センター等の共催で経済産業省の補助金等に関する説明会が開催され、教職員と学外企業関係者等約40名が出席した。

説明会では、中部経済産業局産業技術課中川量機課長補佐から、15年度産学官連携の主な助成施策について概要説明があり、申請にあたってのポイントの解説等があった。

引続き、具体的な内容に関する活発な質疑応答が行なわれた。



申請のポイントについて説明する中川課長補佐
＝工学部秀峯会館

12月のニュース

特別講演会「私立大学の経営危機に学ぶ国立大学改革」

12月11日、高橋真義桜美林大学学長補佐を招き、大学改革推進室主催の特別講演会が開催された。

氏は、前職の私立大学振興・共済事業団の経験を踏まえ、出席した約80名の教職員を前に、過去に経営危機に陥った私立大学の例を挙げながら私立大学の倒産へのシナリオと大学職員の意識改革の重要性について熱く語り、個性輝く大学への不断努力と、マネジメントの如何によって勝ち組と負け組に二極化することを協調した。



講演する高橋氏
＝事務局大会議室



熱心にメモをとる出席者
＝事務局大会議室

大島事務局長が教養的科目で講義 「公務員の種類と概要について」



講義する大島事務局長
＝総合教育棟A1講義室

12月3日、大島事務局長が総合教育棟で行われた後期教養的科目「21世紀を生きるためのキャリアプランII」で「公務員の種類と概要」と題し、1～2年生を中心にした約300名の学生に90分の講義を行った。この授業は、現状と将来の展望について実践的な立場から学習することにより、職業意識の確立と自己理解を深めることを目的として、平成13年度から行われている。

特集

高速ネットワークを利用した遠隔医療システム



記者発表する岩原教授

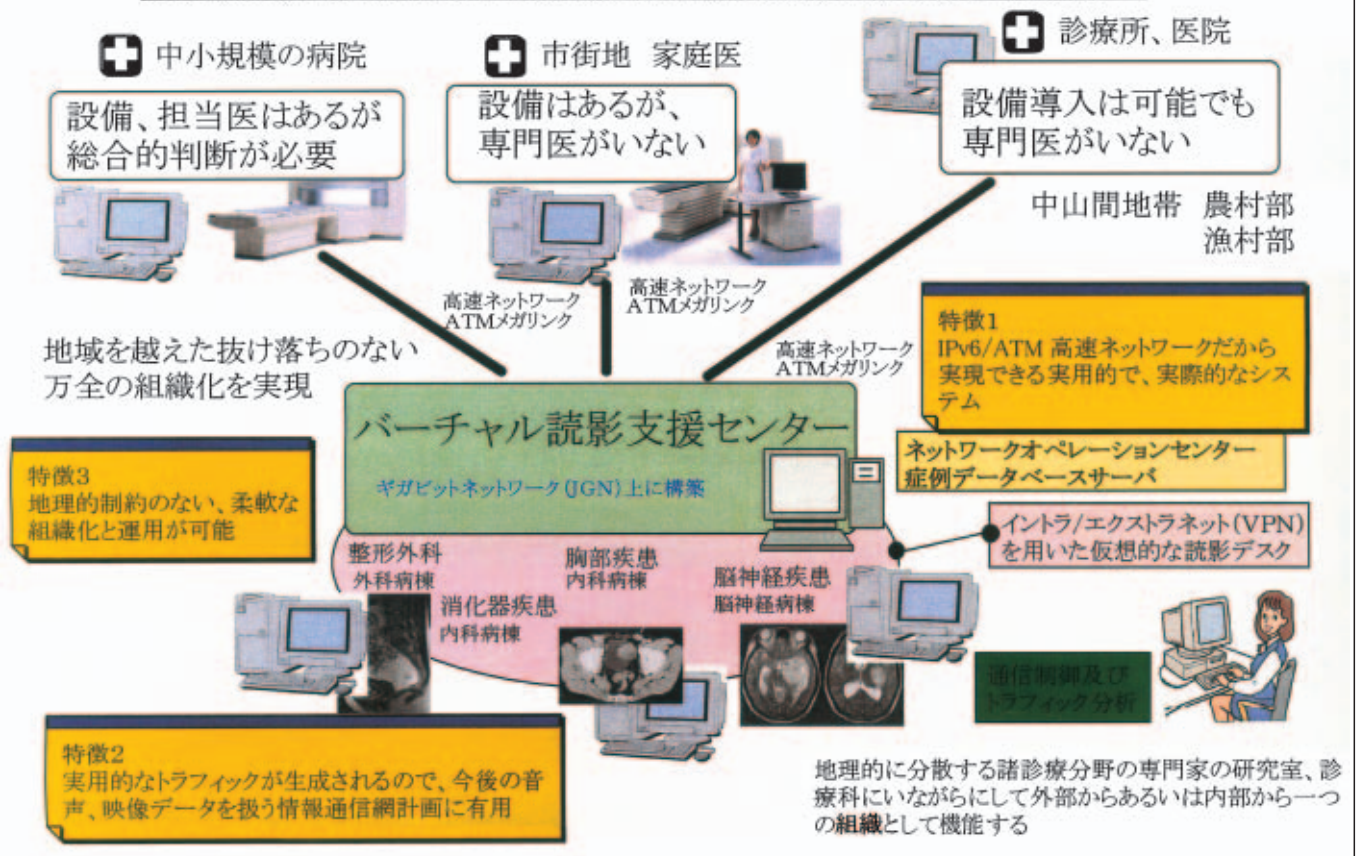
12月11日、医学部保健学科第1会議室において、研究組織の代表者である工学部岩原正吉教授らから、石川県及び近隣の報道機関文教担当に対し、研究の内容並びにその状況を広く北陸3県の県民等に知っていただくためにプロジェクトの概要と成果発表が行われた。

この研究は、総務省認可法人「放送・通信機構」による平成13年度から始まった3年間の受託研究で、金沢大学工学部・医学系研究科・医学部及び徳島大学ゲノム機能研究センターの研究グループとネットワークを利用した北陸3県の協力病院間の医療診断システムの実用化を試みた研究で、今秋概ね運用の目処が立ったものである。このシステムは、現代医療に不可欠な高性能なコンピュータの能力を最大限に活用した

X線画像、コンピュータ断層撮影装置、磁気共鳴断層撮影装置、超音波エコー装置等の医療用画像をネットワーク上に作られた仮想的な医療センターへ送り、同センターに所属する専門医によって直ちに診断、依頼先へ送り返すというもので、こうした仕組みは、これまでも研究されているが、近年のネットワークのブロードバンド化によって初めて実用的な域に達したものである。

発表された研究の成果は、高速画像伝送の実現で可能となる病院間での診断、治療情報を相互に検討し、意見交換を行うこと、専門性の高い診断治療を実現することを目標とするいわゆる、オンラインカンファレンスの試行、さらに、居住するところに依存することなく、「いつでも」、「どこからでも」優れて高い医療水準の恩恵に浴せるようにする上で、極めて重要な技術・医療基盤となるもので、こうした仕組みが使用可能になり地域によって生じる医療格差の平準化に大変有効

高度アプリケーションによる実際のトラフィックと高速ネットワーク応用の促進 地域・病院規模に依存しない高度な診断提供と迅速な治療支援を目指して



なもので、今後、救急医療を含めた様々な医療分野への取り組みが益々進むものと期待されている。

なお、保健学科会場では、富山市民病院や福井赤十字病院等から送られてきた画像をもとに、協力病院等と医学部保健学科の菊池雄三教授、鈴木正行教授、小島一彦教授らによる

通信がなされ、特に鈴木教授と福井赤十字病院とのやりとりは臨場感あふれるものとなり、研究グループでは、今回の試行をもとに新たな協力病院の参加と試行の継続をさらに進め、このネットワークシステムの実用化への方向性を探る決意を新たにした。



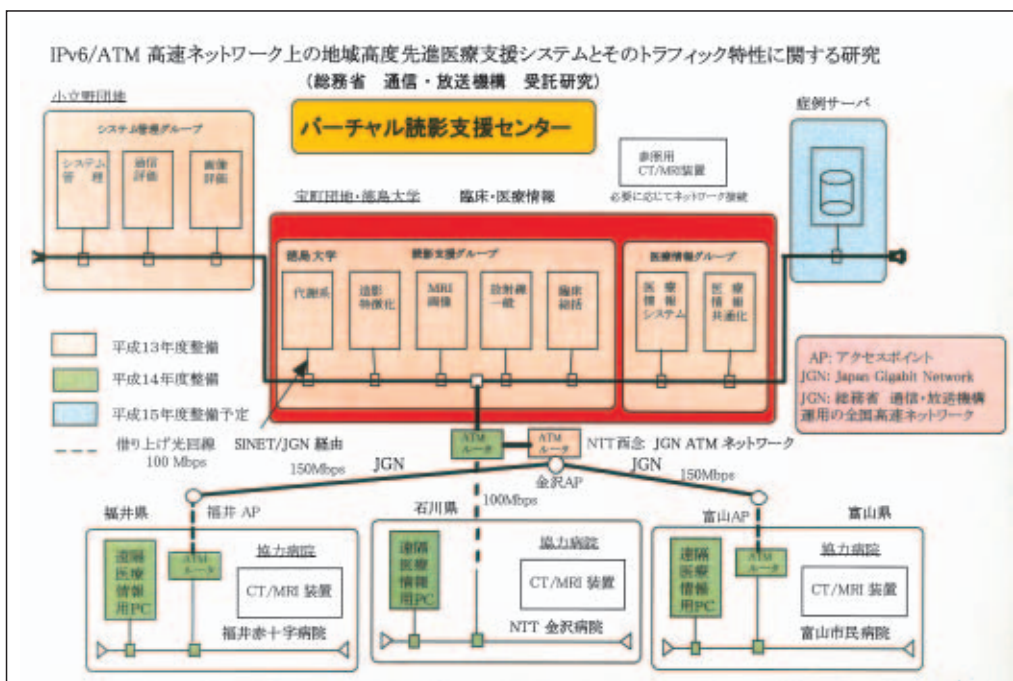
高速ネットワークを使った遠隔医療システムを実演する大学関係者
=12月11日、医学部保健学科第一会議室



通信テストを行う大学関係者

研究体制

- | | | |
|------------------------|-------------------------|----------------------|
| 1) システム設計、通信方式及び画像評価担当 | 2) 医用画像診断及び臨床事例担当 | 3) 通信基盤担当 |
| ○岩原 正吉 工学部教授 | 松井 修 大学院医学系研究科教授 | 吉本 谷博 大学院医学系研究科教授 |
| 長野 勇 工学部教授 | 利波 紀久 大学院医学系研究科教授 | 車古 正樹 総合情報処理センター 助教授 |
| 橋本 秀雄 工学部教授 | 分校 久志 医学部附属病院助教授 | 松本 豊司 総合情報処理センター 講師 |
| | 小島 一彦 医学部教授 | |
| | 菊池 雄三 医学部教授 | |
| | 鈴木 正行 医学部教授 | |
| | 板倉 光夫 徳島大学ゲノム機能研究センター教授 | |



ニュースの杜



後輩に就職活動を語る就職内定者
=12月2日, 文・法・経済学部A203講義室

就職説明会

12月2日及び4日の両日, 文・法・経済学部の講義室において, 就職ガイダンスの一環として, 「先輩と語る」と題して今年銀行, 商社及びマスコミに内定した4年生から3年生に就職活動の体験談を語った。3年生から先輩に就職活動に要した費用はいくらかなど身近な質問もたされ終始和やかな雰囲気のもとで行われた。

金沢大学留学生懇談会

金沢大学留学生懇談会が, 12月11日に工学部秀峯会館で開催され, 留学生約110人ほか金沢大学国際交流後援会や地域の留学生交流団体をはじめ, 学内外の留学生交流関係者が出席した。懇談会では, 留学生による尺八演奏やミャンマーのシャン族の踊り, 森山もみじ太鼓クラブによる太鼓演奏も披露され, 出席者たちは, 楽しいひとときを過ごしていた。



懇談する留学生



留学生による和太鼓演奏
=工学部秀峯会館

ニュースの杜

11月23, 24日, 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールで行われた第55回全日本合唱コンクール全国大会において銀賞に輝いた。

合唱団 全国大会で銀賞！



歌いあげた後、琵琶湖をバックに喜びあう合唱団の面々 = 11月24日

ライフル射撃部 優勝

11月16, 17日に愛知県で行われた第31回中部学生ライフル射撃新人戦で金沢大学は、団体・個人戦とも優勝した。

優勝 田畠 大輔 (経済学部1年) 右端
3位 佐藤 隆英 (法学部1年) 右から3人目
4位 槻橋 凡子 (工学部1年) 右から4人目



個人戦の表彰式で超ロング学らんを着た大会長から表彰を受ける射撃部員 = 11月17日, 愛知県総合射撃場

第2回交通安全講習会

教養教育機構主催の本年度「第2回 交通安全講習会」が、11月28日昼休み時間を利用し、総合教育棟講義室で実施された。

未経験の学生も多い冬期に備え、交通事故防止について約250名の学生が参加し、日本自動車連盟 (JAF) の講師の話に耳をかたむけた。

なごやかな雰囲気の中にも、交通安全の重要性について多くの学生が学んだ。



平成14年度 第2回「交通安全講習会」の開催について

本経験の学生も多い冬期に備え、学生による死亡・傷害事故の防止を図るとともに、学生自身が悲惨な交通事故の犠牲者にならないため、交通安全講習会を開催することになりましたので、参加してください。

なお、下記の対象者は必ず参加するよう呼びかけています。

記

実施日 平成14年11月28日(木) 12時10分から12時40分頃

場 所 総合教育棟 A1講義室

対象者 ・総合教育棟で自動車運転の免許を受けている学部、大学院学生
・その他運転免許証を持っている学部、大学院学生等

《注意》

当日、出席の確認をとり、正当な理由がなく欠席した場合には、次回以降の自動車免許証を発行しないこともあります。

平成14年10月25日

教養教育機構長

学長室等

本学へのお客さま



クラスノヤルスク国立大学（ロシア）
ペロニカ・ラズモフスカヤ現代外国語学部長（中央）と大学関係者



中国医科大学（中国）
滕 衛平学長（左から4人目）一行全3名と大学関係者



大連大学（中国）
高 大彬副学長（中央）
一行全4名と大学関係者



連絡会議風景
＝金沢大学サテライト・プラザ

金沢大学国際交流後援会との 連絡会議

12月6日、金沢大学国際交流後援会の常任理事会役員と本学関係教職員との連絡会議が開催された。3月の後援会設立以降の会員・賛助員募集活動及び現地での入会状況の報告の後、今後の募集方策等について活発な意見交換が行われた。

総務大臣賞を受賞

12月11日、今年度の「国際ボランティア作文コンクール」（総務省主催）で総務大臣賞を受けた附属高校一年篠崎有希さんに、滝尻進治金沢中央郵便局長から賞状が贈られた。作品は、今夏、「JAPAN TENT－世界留学生交流・いしかわ2002」

にボランティアスタッフとして参加したときの体験などを綴ったもの。篠崎さんは受賞を喜び、「これからもボランティアを続けたい」などと語った。



よろこびの篠崎さん

金沢大学サテライト・プラザ

ミニ講演会 「キノコの薬効」

12月12日、ミニ講演会が開催され、太田富久薬学部教授（機器分析センター長）が「キノコ薬効」と題して、講演し、約40名が聴講した。



講演する太田教授
＝金沢大学サテライト・プラザ

内閣府地方分権改革推進会議事務局が 金沢大学地域貢献事業を視察

内閣府地方分権改革推進会議事務局から、参事官補佐 井上示恩氏ほか2名が、12月4日に大学と地元自治体との連携による事務・事業の実施状況調査のため来学した。

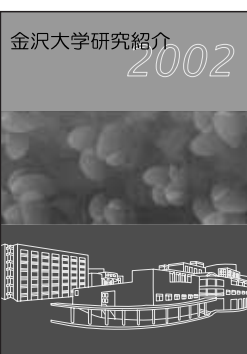
本学が文部科学省の「地域貢献特別支援事業」の一つとして、金沢市の協力で市の中心部に設置している金沢市西町教育研修館を活用した“サテライト・プラザ”と、金沢市中心部の賑わい創出のため廃館した映



金沢大学サテライト・プラザを視察

画館を使用し大学生が自主運営している“香林坊ハーバー”の施設を視察したもので、全学的な地域貢献推進体制と事業全体の概要を紹介し、従来の研究と教育に加え、地域貢献を三つ目の使命とし、地域への押し付けでない活動を目指す、といった点に関心が持たれた。

発 行



『金沢大学研究紹介2002』

お問合せ：総務部研究協力課
金沢大学で行われている研究事例
を紹介したもの



『地域とともに！金沢大学』

お問合せ：地域貢献推進室
平成14年度事業の概要を紹介したもの

角間の里山自然学校

12月14日、モウソウチク林の竹を切り、竹スキーを試作した。参加者全員竹スキー作りは初めてだったが、2時間ほどの苦闘の末、数対の竹スキーが出来上がった。早速試走してみたが、誰かが転ぶたびに皆から歓声があがった。子供はもちろん大人もひととき童心に返って遊んだ。これからも角間の資産を生かしながら北陸の子供の伝統遊びを復活させたいと角間の里山自然学校では考えている。



竹スキーをした後で記念撮影
=角間の里山

キャンパス点描



学長室から望む角間キャンパス南地区
総合研究棟Ⅰの外壁北面のイルミネーション
=12月24日

編 集 後 記

あけましておめでとうございます

長期の休暇により心身共にリフレッシュされたことかと存じ上げます。

これまでの改革（行財政・構造・教育・大学・自己等）の嵐も一応本年で目途をつけ、いよいよ国立大学法人化準備の最終段階に突入した新年であります。結果を恐れずダイナミックな方向付けが求められている中で本学が如何に激レースに勝ち残れるかの正念場かと思われます。

また、反面において成果主義に偏らず経過も大切にしていける事も忘れない冷静な判断が必要ではないでしょうか…ささやかながら本年も広報活動を通して皆様の活力源の一助となるよう紙面を一層充実してまいりたいと考えておりますので、ご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

巻頭言にありますように、学長の願いを皆様とともに共有し更なる飛躍と発展の年となるよう力を合わせて進んで参りたいと祈念いたしております。

（総務部長 湯口太多史）

平成15年1月17日発行
（原則として毎月1回第3週に発行）

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」〈愛称“KUPIS”（キューピース）〉
（アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>）でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール（E-mail）=general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。